

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 読書活動推進費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県図書館 管理調整係 電話番号：058-275-5111 (内 291)

E-mail：c21803@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,012 千円 (前年度予算額：3,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,000	1,190	0	0	0	0	0	0	1,810
要求額	3,012	1,486	0	0	0	0	0	0	1,526
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

紺野美沙子名誉館長朗読会などの実施により、図書館の活用促進を促すことで、県民の読書活動に対する意識の高揚を図り、県民自らが読書を通して課題解決等に取り組むことを支援する。

(2) 事業内容

読書活動支援事業

ア. 紺野美沙子名誉館長朗読会・講演会

岐阜県図書館名誉館長紺野美沙子氏を招聘し、朗読会・講演会を開催。また、遠隔地の読書活動推進を図るため名誉館長アウトリーチ事業として県内市町図書館1館と共催で朗読会を開催

イ. 清流の国ぎふ・おすすめの1冊コンクール

県民の読書活動を幅広く推進することで、県民の文字・活字文化の振興に寄与するとともに、若年層の自ら学び考える力の育成を図る。

図書館活用事業

ア. イベントカレンダーの作成

催し物の周知を図るため、年2回(前期・後期)作成

イ. 大人のためのブックトーク

大学教授等を招き、講師が自ら選んだ本の紹介をトーク形式で行う。

ウ. 楽習会・夏休み特別講座「ことば調べをしてみよう」

岐阜大学教授等による公開講座を開催する。また、岐阜大学教授と学生による「ことば」をテーマにした子ども向け講座を開催

エ. 新聞切抜講座

新聞切抜講座(2回)と優秀作品の展示を開催(新聞社共催事業)

オ. 他機関との連携事業

美術館、文化財保護センター、博物館等と連携した事業を開催

こどもの読書週間イベント

ア. 岐阜県の民話などの朗読会

朗読の指導者を招き、岐阜県の民話や子ども向けの物語などを朗読。

イ. 図書館探検ツアー

図書館のバックヤードを巡るツアーの実施

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	206	紺野美沙子講演会ゲストスピーカー等講演料
旅費	40	紺野美沙子講演会ゲストスピーカー費用弁償
需用費	82	消耗品費、会議費等
役務費	135	チラシ、パンフレット等送付
委託料	2,549	紺野美沙子朗読会・講演会委託料
合計	3,012	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

県図書館自ら読書活動を推進することは、当館の使命の根幹となっており、事業展開それ自体が県内市町村図書館等へのモデルを示すことになり、県全体の読書推進を図ることができることから必要性が高い。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 図書館の活用法を周知することをおして、県民が自ら課題解決に取り組み、心豊かな読書生活を営むよう図書館の活用促進を促し、間接的に情報共有・発信型図書館を推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
読書活動支援事業参加者数（H28～累計）	101 (H5)	2,123 (H29)	3,006 (H30)	4,788 (R元)	8,000 (R5)	59.8%
図書館活用事業参加者数（H28～累計）	0 (H6)	138 (H29)	193 (H30)	239 (R元)	490 (R5)	48.7%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - （1）読書活動支援事業
 - ・紺野美沙子さん朗読会 平成30年11月3日 参加者：300名
 - ・大人のためのブックトーク 全5回 参加者：96人 等
 - （2）図書館活用事業
 - ・ことばしらべをしてみよう（26名参加）
 - ・新聞切り抜き教室（全2回 40名参加）

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 ブックトークや紺野美沙子さん朗読会・講演会等多様なプログラムを用意することで、幅広い年齢層に図書館活用や読書への契機を与えられた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	県図書館自ら読書活動を推進することは、当館の使命の根幹となっており、事業展開自体が県内市町村図書館等へのモデルを示すことになり、県全体の読書推進を図ることができることから必要性が高い。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	図書館活用事業については参加も安定しており効果が得られている。県民の多様なニーズに応えるため、県博物館との共催講演会、県美術館と連携した企画展示、県文化財保護センターとの共催事業を行い、他機関と連携した事業を開催している。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価) ○	博物館や隣接する美術館と連携して事業を行い、互いの専門性を活用し、利用者の拡充を図ることができた。イベントカレンダーの制作により、催事の効率的な周知が可能になった。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 前年度中に講座やプログラムを年間行事に位置付け、情報が氾濫する中でも的確に対象に伝わる広報戦略に基づいた計画的な広報を行う必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県民のニーズは多様化しており、すべてに応じた事業を行なうことは困難であるが、幅広い年齢層を対象とした事業展開を継続的に行う。また、県内公共図書館と連携してアウトリーチ事業を効果的に展開し、県立図書館の役割として、全県域での読書活動推進を図る。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	